

校長室より

第94号

「天空高き」



平成29年4月12日

新たなスタートー平成29年度入学生へー

4月8日に高校と付属中の入学式を行いました。

新入生の皆さん入学おめでとうございます。私たちは心から皆さんを歓迎し、この高水学園での出会いを大切に、これから3年間または6年間、楽しく有意義な学校生活を送ってほしいと思います。

いまの皆さんは、過去の自分がつくってきたものです。未来の皆さんは、いまから自分でつくるものです。

いま日本は少子化、情報化、グローバル化社会の荒波の中、何事に対しても主体的に意欲的に取り組み、多様な人たちと協働しながら新しい価値を創造し、未来を切り拓いていく力が求められています。学校においては、「何を学び、どのようにして学び、何を身に付けたか」が問われます。

今年の3月11日、東北大震災から6年経ちました。翌日のある新聞にこんな趣旨の記事がありました。

「震災で家族も、家も、まちも、すべて失いました。ただ、心の財産だけは残りました。それがあからどうにか生きてこられました」

他の新聞には「過酷な経験を後世に色あせることなく語り続けるため、あの悲しみを忘れません。あの辛さを忘れません。あの無力さを忘れません。あの寒さを忘れません」

フランス作家、サン=テグジュペリの『星の王子さま』の中にも、「心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない」という一節があります。

一番大事なものは目には見えません。心の目でしか見られません。心の目を養うためには、自分の頭と身体を使って鍛え、心を磨くことです。スマホを何時間いじっていても、皆さんの心の財産にはなりません。過去に捉われず、未来を恐れず、今を前向きに素直に全力で生きることで、皆さんのこれからの切り拓かれていくことでしょう。

今日から、授業やホームルーム活動、生徒会活動や部活動などで、また様々な学校



行事を通して、お互いを励まし支え合いながら喜びも悲しみも共有できる「友」という師、一生尊敬できる「教師」という師、そして、生きる勇気と感動を与えてくれる「書物」という師を見つけてください。これらの3つの師は皆さんが未来を切り拓いていくときの大きな支えになってくれます。

今年度入学の皆さんが、高水学園で今日から小さな努力を積み重ね、「6年後または3年後の自律した人間」として本校を巣立っていくことを大いに期待します。

最高の幸せは出会いの中にある—2017対面式—

新入生217名（普通科166名、6年制31名、中学生20名）と在校生509名が一堂に会し、対面式が行われました。

「最高の幸せは出会いの中にある」と言われます。また、「一人ひとりの体は食べたものでつづられています」が、「一人ひとりの考えは皆さんが出会った人のよってつづられています」

高水学園120年目の開校記念日での出会い、を大事にしてください。

そして、自分の夢、目標ややりたいことを実現す。チャレンジし続けてください。失敗は皆さんの素質や能力を広げ、人としての強さ、優しさ、忍耐力や寛容性などの人としての幅も押し広げてくれます。

失敗から学ぶことによって、皆さんの素質や能力が高まり、人としての器が大きくなり、自分の夢や目標を実現する可能性がどんどん高まってきます。

成功の反対は失敗ではありません。成功の反対は何もしないことです。何もしなかったら、失敗も成功もありません。

中学も高校も、ただ就職するための、進学のための通過点ではありません。自分の個性を生かし学力やスキルを伸ばし、自らを成長させる修養の場です。

過去に捉われず、未来を恐れず、今を、前向きに全力でチャレンジして、自らを高め、自己の成長につなげてほしいと思います。



創立 120 年を迎えて—新たなる一步を踏み出そう—

4月10日は本校の創立記念日です。今年で創立120年を迎えます。同窓生は3万1千人を超え、日本国内、そして海外で、活躍しています。

120年の歴史の上にさらに新しい伝統を皆さんと一緒に創っていきたいと思います。

今回は、創立120年を記念して、岩国市副



高水村塾跡及び楽学の碑
(周南市指定文化財)

市長の白木勲様に開校記念講演をお願いしました。

白木副市長は、昭和 44 年に本校を卒業後、広島大学政経学部に進学され、昭和 48 年に岩国市職員に採用されました。平成 14 年に総務部総務課長、18 年に総務部長。22 年からは岩国市副市長の要職に就かれ、今日まで 44 年の長きにわたり、岩国市行政の重鎮として誠心誠意ご尽力されてきました。



講演では、生徒たちに岩国市の将来構想を含め、岩国市の未来像をわかりやすく、パワーポイントにまとめて生徒たちだけでなく、我々教職員もこれからの岩国市の未来像を具体的に思い描くことが出来、大変参考になりました。

また、生徒たちに「何のために勉強するのか」についてご自身の経験を含めて話され、具体的で大変参考になったと思います。21 世紀、特に高度情報化、グローバル化社会において、皆さんには「考える力」を養成することを最重要課題に挙げられていました。

最後に「明るく 広く 温かく」白木副市長の座右の銘というべき、お言葉でしょうか。これまでの人生訓として、拝聴しました。

「これからの時代においても、まず明るい心で自分から元気なあいさつをすることで、相手に明るいメッセージを伝えることができる。広い心で、まず相手の立場に立って物事を考える、相手に思いやりの心で接することで、共感し合え、協調することができる。温かい心で感謝の気持ちを伝える」シンプルな言葉ですが、非常に味のあふ素敵な言葉でした。白木副市長の哲学ともいうべき、お言葉でした。

講演会の最初に、「母校に来ると、仲間意識になる」とお話しされてました。本当に卒業生というだけで、お互いの壁が取り払われます。不思議なもんですね。ありがたいことです。

白木副市長におかれましては、岩国市行政のトップとしてのご重責を担われ、心の休まる時が難しいと拝察しますが、これからの益々のご活躍とご健勝、ご多幸を皆さんと共に祈念し、お礼の言葉としたいと思います。

ならぬものはならぬ—絶対にやってはならないことがある—

- 1つ ウソをついてはならない
- 2つ 人の心や身体を傷つけてはならない
- 3つ 人のものをとってはならない

チャレンジ目標—当たり前のことを当たり前に続ける—

平成29年度のチャレンジ目標

1. 先に元気な挨拶をする
あいさつはコミュニケーションの第一歩です。
2. 5分前行動
先を見て、早めに行動することで、心に余裕が生まれます。事故が起きやすいのは、朝の登校時です。5分早く家を出ることで、余裕が生まれ、事故を防ぐことができます。
3. 1%を誰かのために尽くす
一人ひとりが1%を誰かのために手を差し伸べてください。

読書は心の食物・・・1冊の本が心を潤す・・・

「朝の読書」

みんなで読む。毎日読む。好きな本でよい。ただ読むだけ。

学校が「朝の読書」で始まり、生徒が全員、落ちついた気持ちで授業に臨み、みんながひとりを、ひとりがみんなを大切に、クラス、学年、学びの舎（や）であって欲しい。

長い人生には様々な試練が訪れる。一冊の本が渇いた心を潤し、折れた心を蘇らせる。一冊の本が生き方を示唆し、命を救う。そんな一冊に出逢って欲しい。

24 節気

4日『清明（せいめい）』

『清明』は清浄明潔の略語で気候が温暖となり、すがすがしいと呼ぶのにふさわしい頃を言います。

20日『穀雨（こくう）』

「春雨が降って百穀を潤す」という意味があります。

この時季には南から水蒸気を多く含んだ空気が流れ込むようになり、低気圧が通過するときにはまとまった雨が降るため、田畑を潤して農作物の新芽を盛んに生長させます。しかし、この時季を過ぎると次第に天候は安定し、日差しも強くなって初夏を迎えるようになります。

出典 お天気. com